

1. モモ「おかやま夢白桃」の着果管理（情報）			
[要約] 「おかやま夢白桃」の開花は他の主要品種より2日程度早いですが、人工受粉は満開後となっても結実への問題は少ない。大果という特性を生かすには、3割程度の摘蕾を行うとともに、満開後30日目ごろの予備摘果を入念に行う。			
研究室名	果樹研究室	連絡先	086-955-0276

[背景・ねらい]

モモ「おかやま夢白桃」は、「清水白桃」と「白桃」の間に成熟する大果・高糖度の県オリジナル品種で、岡山のブランド強化に向けて生産を推進している。そこで、本品種の特性を生かした着果管理技術確立する。

[成果の概要・特徴]

1. 「おかやま夢白桃」は他品種に比べて2日程度早く開花するため、人工受粉は満開後となる場合が多いが、満開後に人工受粉を行うことになっても結実率に大きな低下はないので実用上の問題は少ない（表1、図1）。
2. 花粉のない品種は摘蕾を行わない場合が多いが、大玉の果実を得るには摘蕾を行うのが望ましい（表2）。
3. 本品種は生理的落果が少ないため、摘果労力の削減のために予備摘果を行わず一斉摘果が行われているが、その時期が予備摘果時期（満開30日後）より遅いと果実肥大が抑制される（表3、4）。

[成果の活用面・留意点]

1. うまいくだものづくり推進本部発行（平成20年2月発行）の「おかやま夢白桃」栽培の手引きに活用した。
2. 平成19年は開花期が低温で推移し、柱頭の退化が遅れ結実期間が長かった可能性があるため、人工受粉はできるだけ速やかに行う。

[具体的データ]

表1 モモ主要品種の開花日（平成9～19年）

品種名	開花始	満開日
おかやま夢白桃	4/5	4/7
加納岩白桃	4/7	4/9
八幡白鳳	4/7	4/9
白鳳	4/7	4/10
紅清水	4/8	4/11
清水白桃	4/7	4/9
白麗	4/7	4/9
黄金桃	4/7	4/9

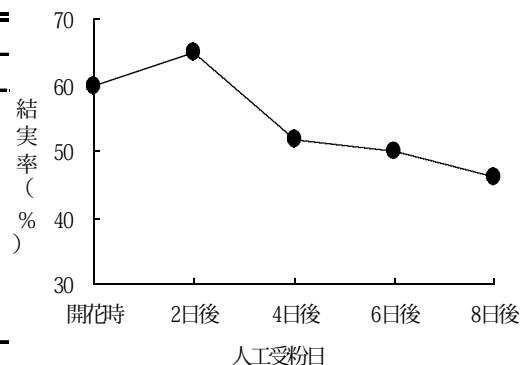


図1 人工受粉日別の結実率（平成19年）

表2 摘蕾の有無と果実品質（平成19年）

区	果実重 (g)	糖度 (Brix)	裂皮率 (%)	核割れ果率 (%)
無摘蕾	306	12.5	3.2	4.4
摘蕾 ^z	324	12.6	7.2	7.1
有意差 ^y	*	n. s.	n. s.	n. s.

^z 摘蕾は花芽の3割を取る程度

^y 果実重、糖度はt検定、裂皮率、核割れ果率はz検定で行った
n. s. は有意差なし、*は5%の水準で有意差あり

表3 摘果方法（平成19年、岡山市）

区	満開30日後	満開37日後	満開45日後	満開53日後
一斉摘果 ^z		摘果 (最終着果の1.3倍)		修正摘果 (最終着果量)
標準 ^y	予備摘果 (最終着果の2倍)		仕上げ摘果 (最終着果量)	

^z 現地慣行の方法

^y 岡山県果樹栽培指針の生理的落果が少ない品種の摘果方法に準ずる

表4 摘果方法別の果実品質（平成19年、岡山市）

区	果実重 (g)	糖度 (Brix)	裂皮率 (%)	核割れ果率 (%)
一斉摘果	313	12.5	2.5	22.5
標準	342	12.4	1.0	33.0
有意差 ^z	**	n. s.	n. s.	n. s.

^z 果実重、糖度はt検定、裂皮率、核割れ果率はz検定で行った
n. s. は有意差なし、**は1%の水準で有意差あり

[その他]

試験研究課題・事業名：「おかやま夢白桃」のブランド化に向けた安定生産技術の確立
予算区分：県単

研究期間：平成19～23年度

関連情報等：平成12年度試験研究主要成果「農試育成系統モモ103-1の特性」

岡山県農業総合センター農業試験場研究報告 第23号 p 13-16

農業総合センター技術情報No. 31 「「おかやま夢白桃」の育成」